

ポスト思春期における日常生活と食生活リズムの 非同期が誘起する生殖機能障害の解析

研究種目： 基盤研究(C)

研究期間： 2015年度～2017年度

研究分野： 食生活学

生活福祉文化学部 生活福祉文化学科

教授 藤原 智子



思春期以後の性機能が完成しつつある女性には適切な医学的分類用語がなく、これまで食生活指導の指標は十分でなかった。私はこの時期を「ポスト思春期」と位置づけ、長年にわたるアンケート調査と食生活実態調査によって朝食欠食の習慣がある学生に月経痛が多いことやこの時期のダイエットが成人期の生殖機能に及ぼす影響、さらにラットによる検証実験から生活活動期の食餌制限がより高度な生殖機能障害をもたらす可能性を明らかにしてきた。そこで本研究では、ダイエットを完全に禁止できない指導現場の現状を鑑みて、摂食リズムと生活活動期のリズムの整合性を保てばダイエットの生殖機能への悪影響を最小限に止めることが可能ではないかと発想を転換し、ダイエットによる生殖機能障害を防御するための食生活プログラムを提言することを目標に、日常生活と食生活リズムの不整合性が「ポスト思春期」女性の生殖機能に及ぼす作用の解析を進めている。

主な著書

Constipation—Causes, Diagnosis and Treatment (2012) InTech Open Access Publisher, Chapter title: Skipping breakfast is associated with constipation, pp47-54.

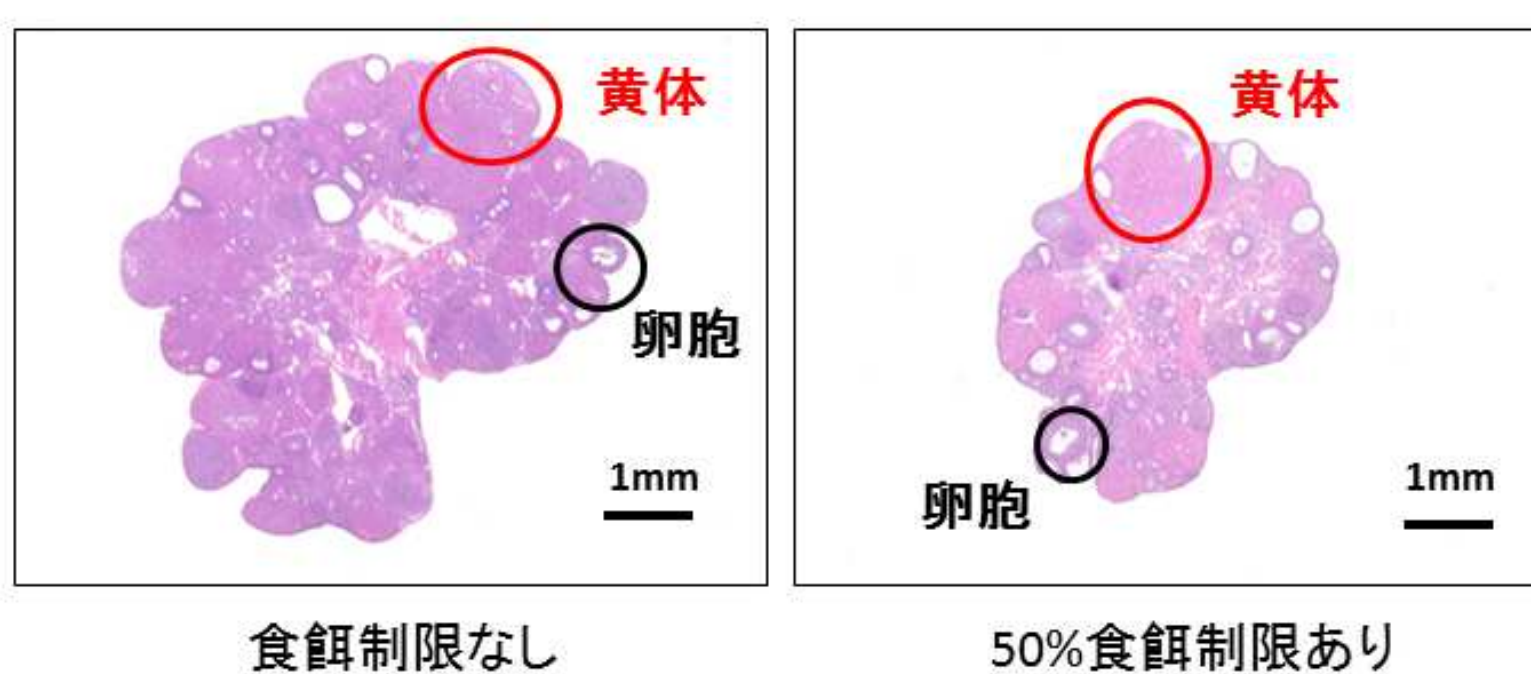
“Skipping breakfast is associated with reproductive dysfunction in post-adolescent female college students.” Appetite 55:714-717. (2010)

“Skipping breakfast adversely affects menstrual disorders in young college students.” Int J Food Sci Nutr. 60:23-31. (2009)

“Diet during adolescence is a trigger for subsequent development of dysmenorrhea in young women.” Int J Food Sci Nutr. 58:437-444. (2007)

“Skipping breakfast is associated with dysmenorrhea in young women in Japan.” Int J Food Sci Nutr.54:505-509. (2003)

食餌制限が卵巣機能に及ぼす影響



ポスト思春期モデルラット卵巣の最大面積切片(HE染色)を示した。食餌制限によって、卵巣の発育が抑制され、排卵が止まったために黄体数も少ない。

京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課

電話：075(706)3789

FAX：075(706)3793

電子メール：kenkyu@notredame.ac.jp